

## 研究制度評価個票（中間評価）

<b>研究制度名</b>	農林水産研究推進事業のうち アウトリーチ活動強化	<b>担当開発官等名</b>	研究企画課
		<b>連携する行政部局</b>	消費・安全局食品安全政策課 研究開発官室（基礎）
<b>研究期間</b>	H28～R6（9年間）		
<b>総事業費</b>	0.9億円（見込）		

### 研究課題の概要

現在、我が国ではゲノム編集技術等により、安定的な食料供給、持続性向上、健康社会の実現に資する農作物の開発など、新たな需要開拓、イノベーション創出につながる画期的な研究成果が期待される中で、本年度（R2年度）に、ゲノム編集作物の第1号となるGABA高蓄積トマトが国内で流通可能となり、今後その他の作物等についても社会実装を進めていくことが重要である。

一方、ゲノム編集技術に対しては国民から不安の声もあり、研究成果の社会実装に当たっては、これによるベネフィット（※1）やリスク等に関する情報を、科学的知見から丁寧に説明し、国民からの期待や不安の声に応えるアウトリーチ活動（※2）が重要である。

このため、消費者のみならず関係業界に対してもアウトリーチ活動を行うとともに、WEBを通じた情報発信を行うなど、ゲノム編集技術等に対する国民理解の向上を目的とし、事業に取り組んでいる。

具体的には、本年度（R2年度）までに、講義形式のほか、研究施設における見学会など様々なコミュニケーション手法を実践してきており、今後、学生、消費者、生産者等様々な属性における効果的なコミュニケーション手法を構築すること等により、ゲノム編集技術等に対する国民理解の向上を図る。

### 1. 研究制度の主な目標（アウトプット目標）

中間時（5年度目末）の目標	最終の到達目標
①大学やNPO法人等での出前授業や勉強会等のアウトリーチ活動を5年間で300回以上開催する。また、参加者数は5年間で9000人以上を対象とする。	①大学やNPO法人等での出前授業や勉強会等のアウトリーチ活動を目標年度（R6年度）までに、400回以上開催する。また、参加者数は目標年度（R6年度）までに18,000人以上を対象とする。

### 2. 事後に測定可能な研究制度のアウトカム目標（R6年）

本事業で実施するアンケートの回答において、参加者のゲノム編集技術等に関する質問事項の正解率を概ね80%まで高める。

### 【項目別評価】

#### 1. 社会・経済の諸情勢の変化を踏まえた研究制度の必要性

ランク：A

##### ①事前評価後の社会・経済の諸情勢の変化を踏まえた上での研究制度の重要性

ゲノム編集技術等については、国内外での研究開発が急速に進みつつあり、我が国が科学的・技術的な優位性を築くことは、研究開発分野及び農林水産業における国際競争力の確保に不可欠である。また、本年度（R2年度）に、ゲノム編集作物の第1号となるGABA高蓄積トマトが国内で流通可能となり、今後その他の研究成果も社会実装が期待される状況にある。本事業では、これら研究成果について、国内において社会実装を円滑に進めるためのものであり、重要性は高い。

##### ②引き続き国が関与して研究制度を推進する必要性

我が国では、ゲノム編集技術や遺伝子組換え技術等の先端技術に対し国民の不安の声があるとともに、米国等と比べ、これら先端技術を活用しようとする民間企業の取組も低調な中、国民が科学的な観点でこれらの技術に対して理解・判断し社会として受容できる環境整備については、国が主導的な役割を果たす必要がある。

また、R2年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」においても、「ゲノム編集技術等は、飛躍的な生産性の向上等が期待される一方、国民の理解を深めていくことが重要であることから、

国民への分かりやすい情報発信、双方向のコミュニケーション等の取組を強化する」旨、明記されているところ。

## 2. 研究制度の目標（アウトプット目標）の達成度及び今後の達成可能性

ランク：A

### ①中間時の目標に対する達成度

H28年度から本年度（R2年度）までに、出前授業や勉強会等のアウトリーチ活動を、計288回実施した。また、参加者数については、約9,500人である。活動回数が目標に到達していない理由は、新型コロナウイルス感染拡大により開催方法等の見直しを迫られたこと等によるものである。

### ②最終の到達目標の今後の達成可能性とその具体的な根拠

過年度の取組実績等を基に設定していること、また、本事業では、大学等への出前授業や業界等に対する勉強会開催が大きな柱となるが、常日頃から、これら出前授業や勉強会開催の受入れについて、開拓を行っていることから、目標達成は可能と考えられる。

## 3. 研究制度が社会・経済等に及ぼす効果（アウトカム）の目標の今後の達成可能性

ランク：A

### ①アウトカム目標の今後の達成の可能性とその具体的な根拠

これまで、講義形式のコミュニケーションのほか、研究施設における見学会など様々なコミュニケーション手法を実践し、知見を蓄積してきた。今後は、参加者によってどのようなコミュニケーション手法（講義、討論、見学会等）が最も効果的か検証を行い、学生、消費者、生産者等様々な属性における効果的なコミュニケーション手法案を構築することにより、アウトカム目標を達成することができると考える。

### ②アウトカム目標達成に向け研究成果活用のために実施した具体的な取組内容の妥当性

アウトカム目標達成のためのコミュニケーション手法の構築に向け、複数のコミュニケーション手法を実施してきており、目標達成に必要な知見の蓄積に努めている。

## 4. 研究制度運営方法の妥当性

ランク：A

### ①制度目標の達成に向けた進行管理のために実施した具体的な取組内容の妥当性

採択された事業者とは、出前授業等の活動実施毎の概要の報告や、月毎の予算の執行状況を報告してもらうなど、年度中の進捗状況の確認を密に取っている。

### ②制度目標の達成に向けた研究予算の配分の最適化及び効果的な活用のために実施した取組内容の妥当性

本事業は、毎年度、事業実施主体を公募により選定している。公募では、アウトリーチ活動に対する専門的な知識や分析能力を有する多様な主体が応募できるように行うとともに、採択に当たっては、複数の外部有識者による審査委員会を設け、公平・公正に審査を行っている。

また、本事業は毎年度、過年度の実績等を踏まえ予算要求を実施している。今後とも、目標の達成に向け、適切な予算確保及び執行に努めていきたい。

## 【総括評価】

ランク：A

### 1. 研究制度の継続の適否に関する所見

- ・ゲノム編集作物が実際に市場に流通する段階に入り、メディアへの露出が増えている中、国民の不安や疑問はいまだに根強いものがある。こうした不安感を払拭するための透明性のある情報公開、国民の理解向上を図る上での取組として、この制度の重要性は非常に高い。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、おおむね計画どおりに進捗しており、目標の達成可能性は高いと評価する。

### 2. 今後検討を要する事項に関する所見

- ・ゲノム編集の研究プロジェクトなど、推進中の研究との連携を深めることで、最新の情報提供に努めていただきたい。
- ・若者から高齢者まで幅広い層に伝わるように、様々な媒体を通じて透明性の高い情報を提供していただきたい。
- ・オンライン環境の活用など、新型コロナウイルス感染症の状況を逆手に取り、新しいアウトリーチの手法を積極的に取り入れることを検討いただきたい。

[研究課題名] 農林水産研究推進事業のうちアウトリーチ活動強化

用語	用語の意味	※ 番号
ベネフィット	消費者が商品やサービスを利用することで得られる有形、無形の価値（便益、健康、ステータス等）。	1
アウトリーチ	英語で「手を伸ばすこと」を意味する。本事業では、試験研究機関の研究成果を社会に周知するために、研究者や専門家が国民・業界に対し、研究成果の意義や効果等を分かりやすく伝え、それらに対する期待や疑問に応えるコミュニケーション活動を指す。	2

# ○ アウトリーチ活動強化（拡充）

【令和2年度予算概算決定額 10（10）百万円】

## <対策のポイント>

ゲノム編集技術等の社会実装に向けて、**専門家と国民・関係業界との双方向コミュニケーション**や、**消費者モニター**による栽培圃場の見学等を実施します。

## <政策目標>

ゲノム編集技術等先端技術に対する国民理解の向上

### <事業の内容>

#### 1. 専門家による地域の多様な国民・産業界へのアウトリーチ活動（継続）

- 大学への出前授業等を活用し、研究者等の**専門家からゲノム編集技術等に関するベネフィットやリスクに関する正確な情報発信**を行い、国民・産業界からの期待や不安等に応える**双方向コミュニケーション**を実施します。

#### 2. ゲノム編集技術等に関する解説及び情報発信（継続）

- 技術の萌芽期にあるゲノム編集技術について、国民が不安に思う事項等の分析を行い、**科学ライター**等を活用した解説資料を作成し、各種媒体を通じて**情報発信**します。

#### 3. 消費者モニターによる圃場見学（新規）

- **消費者モニター**等によるゲノム編集作物の栽培圃場の見学を行うとともに、商品化に向けた意見を収集し、**ゲノム編集作物の社会実装を加速化**します。

## <事業の流れ>



### <事業イメージ>

#### 1. 専門家による地域の多様な国民・産業界へのアウトリーチ活動



#### 2. ゲノム編集技術等に関する解説及び情報発信



#### 3. 消費者モニターによる圃場見学



【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究企画課(03-3502-7408)